

基 調 講 演

テーマ：山口県の自然災害の可能性を考える

講 師：山口大学工学部
教 授 三 浦 房 紀



略歴

- 昭和49年3月 山口大学工学部土木工学科卒業
- 昭和51年3月 京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修了
- 昭和51年4月 京都大学防災研究所助手
- 昭和58年4月 山口大学工学部助教授
- 平成4年6月 山口大学工学部教授
- 平成13年4月 山口大学アドミッションセンター長
- 平成14年4月 山口大学評議員
- 平成16年4月 山口大学工学部副学部長

研究活動・著書等

- 専 門：地震工学、防災工学
- 発表論文：約150編。著書（共著） 翻訳（共訳）3冊
- 受 賞：平成15年6月総務省中国総合通信局局長賞
平成17年4月文部科学大臣賞 科学技術賞理解増進部門
- 活 動：山口県防災会議防災対策専門部会長、NPO 法人防災ネットワークうべ理事長
日本自然災害学会防災教育特別委員会委員長

講演内容

山口県は全国的には自然災害の比較的少ない県である。これは中国地方についても一般に言えることである。しかしながら、現在西日本は地震の活動期に入ったと言われ、現に阪神・淡路大震災以降、鳥取県西部地震、平成芸予地震、福岡県西方沖地震など頻繁に発生している。21世の前半には南海地震が起こると考えられており、それによって地殻のひずみが解放されるまでは、各地で地震が起こることはまずまちがいない。

その一方で、集中豪雨、台風の大型化による風水害が頻発している。これは地球の温暖化が原因とも言われている。もしそうであれば、今後ますます風水害の危険性は高くなることになる。

この講演では、山口県を中心に地震、風水害の過去の例を紹介するとともに、今後の災害発生の可能性を述べる。そしてそれら災害を最小限に防ぐためのハード、ソフト両面で必要な取り組みについて一緒に考えたい。